

ファッションビジネス学会 総 会 資 料

2025・5

2025年度 ファッションビジネス学会 定期総会

2025年度 ファッションビジネス学会 定期総会によせて

会長 岡本 義行

ファッションビジネス学会は再生しました。組織改革に取り組んできましたが、新しい組織に魂を入れましょう。学会メンバー間のイキイキとした関係づくりです。良いアイデアがあれば是非ご提案ください。

トランプ大統領が再登場して以来、世界が騒々しくなりました。どの国も関税問題で迷惑を被っています。本当に関税が発動されればさらに経済的混乱が波及することになるでしょう。中国はすでにさまざまな手を打っているように見えます。Sheinなどの企業のように、生産拠点を東南アジアに移転してきた結果、カンボジアではトランプの相互関税が、常軌を逸した49%に設定されました。

「製造業を国内に回帰させたい」というトランプ大統領の「白日夢」は、世界の産業構造と貿易関係を過去に逆転させようとするようなものであります。当分は経済や関係に軋みを生じるでしょう。場合によっては過去の事例のように戦争の原因になるかもしれません。しかし、世界経済は1～2%で成長し、発展する国が必ずあります。短期的な対応だけではなく、それに向けた政策と人材を準備することが重要です。ファッションビジネスはその突破口ともなる産業です。

同時に、生成AIなど新しい技術を消化していかねばなりません。学会としても積極的に取り組みたいと考えています。学会の会員間に研究仲間をつくり、業界の課題や将来を議論していきたいものです。仲間づくりが今年の課題です。

定期総会	総会 第1号議案 2024年度事業報告と決算承認の件 第2号議案 2025年度事業計画と予算承認の件 第3号議案 2024年度活性化活動結果と2025年度活性化計画の件 機構改革・運営改善について 第4号議案 運営規約の一部改正について 第5号議案 役員並びに名誉会員名簿
特別講演会	<p style="text-align: center;">— 特別講演 —</p> <p style="text-align: center;">テーマ：新たなファッションビジネス学会のスタート — 機構改革／運営改善について —</p> <p style="text-align: center;">講師：ファッションビジネス学会会長 岡本 義行</p>

ファッションビジネス学会 定期総会

第1号議案

2024年度 事業報告と決算承認の件

(2024年4月1日～2025年3月31日)

事業報告

1 2024年度定期総会と特別講演会

2024年5月18日(土)にオンラインリモートにおいて開催され、各議案がそれぞれ承認された。

- 第1号議案 2023年度事業報告及び決算承認の件
- 第2号議案 2024年度事業計画及び予算承認の件
- 第3号議案 2023年度活性化活動結果及び2024年度活性化計画の件
- 第4号議案 運営規約の一部改定の件
- 第5号議案 役員並びに名誉会員名簿の件

総会後には以下のとおりオンラインリモートによる特別講演会を実施、学会及び業界の今後を示唆する大変貴重な講演会となった。

テーマ：「世界を導くデザインとは」

—未来を“測る”から“創る”へ—

講師：未来予報株式会社 代表取締役 / Futurist 宮川麻衣子 氏

2 2024年度全国大会の開催

2024年11月16日(土)、関西支部の主催において「FX ファッショントランスフォーメーション×ウェルビーイング —ファッションの変革と明るい未来—」をテーマとした全国大会が対面形式において開催された。

「モノ作りから未来作り —持続可能な貴方の可能性—」をテーマとした基調講演から口頭研究発表・ポスタープレゼンテーション、交流パーティーまで、盛会のうちに終了した。

全体研究発表35報（口頭発表30報、展示発表5報）

3 論文誌発行

デジタル版Vol.29を2024年5月に発行した。

4 FBアワードY2024

学生の育成支援、学生会員確保を目的に一昨年度から実施した学生を対象としたファッションビジネス企画コンテスト。2024年度は5月からの募集に90チーム342人が応募、その中から一次審査によって選出された10チームが8月3日のオンラインによる最終審査会に挑み、上位3チームが決定した。

5 研究部会活動 *順不同

関東エリアと関西エリアの研究部会の報告。

■関東エリア 13研究部会

研究部会名	服装社会学研究部会
部会長/代表	田中 里尚
メンバー	79名
活動結果	・2025年2月15日(土) 14時～15時30分 文化学園ファッションリソースセンター（以下、リソースセンター）には、1960年代後半から80年頃のパリコレ関連のエフェメラ（インビテーションやショープログラムなど）や写真（紙焼きやネガ、ポジ）、手書き原稿などが収蔵されている。エフェメラの多くは同地に開設されたパリ支局の特派員が『装苑』や『ハイファッション』の取材で収集したもので、約600冊のスクラップブックや封筒、ノートにまとめられた状態で遺されている。これら資料はファッション史・ファッション文化研究にとって重要だが、省みられていない資料群だった。それらの資料研究が世界で行われており、その動きに応じて本学の工藤雅人准教授が研究を開始し、これらの資料の一部を集めた展示「思考のバックヤードとしてのマルジナリア——エフェメラに残された書き込み」を、2月12日(水)から21日(金)までリソースセンター展示室で開催した。服装社会学研究部会では、企画者である工藤雅人と特派員としてパリ支局にも在籍していた編集者の西谷真理子氏によるギャラリートークを共催した。
活動予定	・2026年2月～3月ごろ、今年度の研究および展示についての延長上にある研究部会を開催する予定である。

研究部会名	戦略研究部会
部会長/代表	首藤 眞一
メンバー	27名
活動結果	7月：研究会 対面開催 「日本の繊維産業・産地の活性化に向けて」 発表者：文化ファッション大学院大学 内海 里香

活動結果	<p>2月：研究会 対面開催 「ファッション商品紹介動画のコンテンツと効果についての一考察」 発表者：文化ファッション大学院大学 荒川 京子 「Z世代が好感を持つSNSコンテンツの要素に関する考察～SHIBUYA 109の事例を中心に～」 発表者：文化ファッション大学院大学 春日 友里 「ファッションビジネスにおけるアニメキャラクター活用の権利関係について」 発表者：文化ファッション大学院大学 宋 玉琨</p> <p>3月：勉強会 対面開催（予定） 「企業内リードユーザー」 講師：法政大学イノベーションマネジメント研究センター 客員研究員 中小企業診断士 渡邊 裕也 氏</p>
活動予定	<p>7月：勉強会 ゲストスピーカーを招いた勉強会 10月：研究会 戦略研究部会メンバーによる基調報告 2月：勉強会 ゲストスピーカーを招いた勉強会</p>

研究部会名	IT時代のファッションビジネス研究部会
部会長/代表	熊崎 高道
メンバー	5名
活動結果	<p>* ファッションビジネスをAIを使って企画表や生産表、販売企画表など作成方法を研究。 企画表、生産表、販売企画表の作成 分析結果をもとに、AIは企画表、生産表、販売企画表を作成します。これにより、最適な商品ラインナップを提供することができます。</p> <p>* AIによるファッション業界と大学での活用の仕方を研究。 商品のデザインや生産の最適化 AIを使用して、商品のデザインや生産プロセスを最適化することができます。例えば、商品のデザインをAIが最適化することで、より効率的かつ高品質な商品を生産することができます。</p> <p>* AIを使った電子書籍の販売の仕方を研究 ソーシャルメディアを利用して、AIによるターゲティング広告を活用し、ターゲット層に向けた書籍の販売を行うことができます。また、インフルエンサーやブロガーと提携して、その影響力を利用した販売促進を行うこともできます。</p> <p>* ファッション関連の電子書籍（熊崎高道書）は、日本、アメリカで拠点があり全世界に向けて販売しています。 オンライン書店や出版社のウェブサイト、または電子書籍販売サイトなどを通じて購入することができます。日本やアメリカをはじめとする国々で、配信が行われているため、全世界からアクセス可能です。</p>
活動予定	<p>前年度からのテーマで引き続き活動 IT時代のファッションビジネス研究部会は、ITでAIを使った最新の情報で研究活動実施していく予定です。現代のデジタル機能の進化でファッションを取り巻く環境がますます多様化しています。特に、AIが変化していく中で、学際的な研究を考えて、新しい情報がどのように展開していくか研究中です。</p>

研究部会名	アパレルリサイクル研究部会
部会長/代表	井口 多恵子
メンバー	8名
活動結果	<p>・11月・全国大会・研究発表「きものを素材とした持続可能な服飾デザイン」 発表者：井口 多恵子・高野 美帆</p> <p>*上記の研究発表を東日本支部講演論文集に掲載</p> <p>・12月・神奈川県私立中学高校家庭科教員の研修会・講師「アップサイクル作品の製作」</p> <p>・例会はなし</p>
活動予定	<p>・自治体の環境活動に参加予定</p> <p>・その他については検討中</p>

研究部会名	ユニバーサルファッション研究部会
部会長/代表	杉野 公子
メンバー	8名
活動結果	<p>*NPO法人ユニバーサルファッション協会、リファッション研究部会と共催</p> <p>6月・勉強会『障害者差別解消法と向き合うために』・ハイブリッド開催</p> <p>9月・勉強会『ファッションを気持ちよく楽しむために ～障害者差別解消法を機に考える～』</p> <p>12月・勉強会『IT業界からみたメタバース・Web3の未来におけるユニバーサルデザイン』</p>
活動予定	5月・勉強会『誰もが来やすい服を作るためのヒント』など

研究部会名	ファッション産業史研究部会
部会長/代表	福永 成明
メンバー	23名
活動結果	<p>1. 年間を通して海外文献を含めて歴史資料を収集、以下のレポートを作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグジュアリーの世界の歴史 ・スポーツウェアの歴史 ・ファッションメディアの歴史 ・明治時代のテーラー ・アイビーファッションの歴史 ・時代を超越するファッション ・ファッションプロモーションの歴史 ・ファッションにみる流行史 ・変革するメンズファッションの売り場 <p>2. 部会の開催は開かれず、資料収集と作成に重点を置いた。</p>

活動予定	<p>1. 新年度に例会を再開し、メンバー構成の検討と今後の活動方針を検討する。とくにファッション産業史に関心のある教員を全国から募りたい。</p> <p>2. 休会中の例会を毎月の頻度で開催する。</p> <p>3. 収集・作成した資料を基に発表会を開催する。(日時・内容は例会で検討)</p>
------	--

研究部会名	リファッション研究部会
部会長/代表	木田 豊
メンバー	11名
活動結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共感セッション実行委員会を後援し、講演・写真展を実施した 日時：2024年3月24日(日) 於：ホクトピア 講師：南 研子、小林 茂、佐藤 南帆 「共感は共生を紡ぐ」をテーマに、長年に亘る環境保護と原住民との文化交流の中にリファッションの源流を探るセッションとなった ・ 当研究部会は10年にわたり7月4日「お直しの日シンポジウム」を実施してきたがコロナ禍で途絶えてしまった。新たな活動を構築するための方策と新体制作りの検討を行った。
活動予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年に続き、共感セッション実行委員会を連携後援する 日時：2025年6月7日(土) 講師：南 研子、アーサー・ビナード（童話作家） 南氏は36回目のアマゾン渡航を計画中、2冊目の学童書の「アマゾン森の精霊の声」で若者に訴えたいことをテーマに双方向のセッションを行う ・ FB学会の新しい方向である、より教育と研究を重視するに沿った部会活動が実施出来るような新体制とするため、2024年度中は関係者の検討打ち合わせを行ってきた 2025年度から新部会長、新事務局でスタートする

研究部会名	+10Y研究部会
部会長/代表	篠崎 友亮
メンバー	20名
活動結果	<p>FashionStudies®（ファッションスタディーズ）との共催</p> <p>研修会① テーマ：ファッション企業のための補助金・助成金の申請のいろは 2024 日 時：2024年4月8日(月) 19時30分開催</p> <p>研修会② テーマ：新進気鋭の韓国発コスメブランド「TAMBURINS」から考察する人気ブランド形成の要因 日 時：2024年5月1日(水) 19時開催</p> <p>研修会③ テーマ：繊維メーカーが取り組むフェムテックとフェムテックを用いて生まれたOUR Amulet 日 時：2024年5月24日(金) 18時30分開催</p>

活動結果	<p>研修会④ テーマ：改めて学ぶインボイス制度の初歩 日 時：2024年6月3日(月) 19時30分開催</p>	
	<p>研修会⑤ テーマ：トークセッション「MIKA TAMORI 心理的屈性」 日 時：2024年6月16日(日) 14時開催</p>	
	<p>研修会⑥ テーマ：ラグジュアリーと廃材 日 時：2024年8月2日(金) 19時開催</p>	
	<p>研修会⑦ テーマ：パンクと抵抗のスタイル 日 時：第1回 2024年8月23日(金) 18時30分 第2回 9月12日(木) 16時30分</p>	
	<p>研修会⑧ テーマ：アート講座⑤ ヨーゼフ・ボイスからの問い 日 時：2024年9月1日(日) 14時30分開催</p>	
	<p>研修会⑨ テーマ：装い 未来への問い 2つの事例から 日 時：2024年9月27日(金)</p>	
	<p>研修会⑩ テーマ：アート講座⑥ 50年前の戦争と美術から 日 時：2024年10月17日(木) 19時開催</p>	
	<p>研修会⑪ テーマ：アパレル生産管理業務のスキルアップを目指すには 日 時：2024年10月24日(木) 19時開催</p>	
	<p>研修会⑫ テーマ：「LOVEファッション」展を楽しむためのレクチャー 日 時：2024年11月5日(火) 18時30分開催</p>	
	<p>研修会⑬ テーマ：ファッション分野に生成AIを活かすための講義&ワークショップ デザイン・企画・コンテンツ作成まで 日 時：2024年11月18日(月)、11月25日(月) いずれも19時30分開催</p>	
	<p>研修会⑭ テーマ：開発とファッション 一服の旅人— 日 時：2024年12月26日(木) 18時30分開催</p>	
	<p>研修会⑮ テーマ：日本のものづくりのブランド力と日本繊維産地の現状分析・可能性 日 時：2025年1月23日(木) 19時30分開催</p>	
	<p>研修会⑯ テーマ：連続講座 現代美術史——戦前から2000年代まで 日 時：第1回 2024年12月16日(月) 開催 第2回 2025年1月7日(火) 開催 第3回 2025年2月5日(水) 開催 第4回 3月25日(火) 開催</p>	
	活動予定	今後もFashionStudies®（ファッションスタディーズ）との共催を予定

研究部会名	デジタルテキスタイル研究部会
部会長/代表	城田 衣
メンバー	40名
活動結果	<p>デジタルテキスタイルの普及、理解度の向上を目的に以下3回の講演会を行った。</p> <p>①2024年8月・企業および大学講師による講演会 ・テーマ「デジタルテキスタイルの未来」・対面開催（オンラインなし）</p> <p>②2024年12月・企業講師による講演会 ・テーマ「デジタルテキスタイルアカデミー基礎」・オンライン開催</p> <p>③2025年3月・企業および大学講師による講演会 ・テーマ「ファッションデザインとアートを紡ぐ デジタルテキスタイルの可能性」 ・対面開催（オンラインなし）</p>
活動予定	<p>デジタルテキスタイルの普及、理解度の向上を目的に3回講演会を行う予定。</p> <p>①2025年8月・企業および大学講師による講演会 ・テーマ「未定」・対面開催（オンラインなし）</p> <p>②2025年11月・企業講師による講演会 ・テーマ「デジタルテキスタイルアカデミー基礎」・オンライン開催</p> <p>③2026年3月 企業および大学講師による講演会 ・テーマ「未定」・対面開催（オンラインなし）</p>

研究部会名	ファッションロー研究部会
部会長/代表	関 真也
メンバー	約20名
活動結果	「知的財産権とSDGsとの関係～商標権は、アップサイクルの妨げとなるか?～」 (2025年1月22日/不定期研究会/Zoomによるオンライン開催)
活動予定	適宜検討予定

研究部会名	FashionGood研究部会
部会長/代表	山口 大人
メンバー	13名
活動結果	<p>下記の通りイベントを実施いたしました。</p> <p>①FashionGood lab. #018 「真贋美学 Vol.2 真贋ワークショップ ～模倣品と本物の間にあるものとは～」 講 師：株式会社Myblex 代表取締役社長 竹林 雅夫 開 催 日：8月24日(土) 開催時間：14時30分～16時40分（17時完全退出） 開催場所：株式会社Myblex</p>

活動結果	<p>②「Adaptive Fashion vol.1 前編 ～障害とは?～」 登壇者：日本アダプティブファッション協会 理事／社会福祉法人大阪 重症心身障害児者を支える会 三田 深愛 氏 司会&登壇者：FashionGood lab.主宰／日本アダプティブファッション協会 理事 山口 大人 開催日：9月25日(水) 開催時間：19時30分～21時（延長の場合は21時15分まで） 開催方法：オンライン（ZOOM：ミーティング形式） 主催：一般社団法人アダプティブファッション協会 共催：FashionGood lab.</p> <p>③「Adaptive Fashion vol.1 後編 ～文化芸術的観点からアダプティブファッションを考える～」 登壇者：日本アダプティブファッション協会 理事／社会福祉法人大阪 重症心身障害児者を支える会 三田 深愛 司会&登壇者：日本アダプティブファッション協会 理事／FashionGood lab.主宰 山口 大人 開催日：10月8日(火) 開催時間：19時30分～21時（延長の場合は21時15分まで） 開催方法：オンライン（ZOOM：ミーティング形式） 主催：一般社団法人アダプティブファッション協会 共催：FashionGood lab.</p>
活動予定	4月下旬にFashion Revolution Week関連イベントとしてイベントを実施予定。

研究部会名	ファッションテック研究部会
部会長/代表	五月女 由紀子
メンバー	6名
活動結果	<p>①6月：第1回 ファッションに特化した生成AI「Maison AI」の使い方と教育法 杉野学園内のメンバーで、杉野服飾大学の2年～4年で画像生成AIの教育に取り組んだ事例を紹介して、ドレスメーカー学院は教員がまず契約をして、サービスを試してみるところから始める。</p> <p>②9月：五月女登壇 Tokyo AI Fashion Week 2025S/S 生成AIとファッションの未来*教育セッション</p> <p>③11月：FB学会全国大会 2024年までのまとめ 五月女研究発表「生成AIを活用したファッションビジネスにおける実践教育の報告」</p> <p>④3月：勉強会 タニデジタルラボ(株)代表取締役 谷本 広幸氏（元三菱商事ファッション(株)デジタル事業開発部長）による生成AI「Maison AI」の最新機能の紹介と使い方</p>

活動予定	<p>ファッションに特化した生成AI「Maison AI」の技術修得と教育への展開を目的とする。</p> <p>①生成AIによるデザインコンテストへの応募（画像生成AI）</p> <p>②生成AIの教育への落とし込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像生成AI→デザインから造形まで可能かどうかのチャレンジ ・生成AIによるビジネス活用 <p>AIエージェントの活用による、デザインコンセプト作り、企画書作り、トレンド分析、原稿作り、ECサイトやSNSでの応用などのビジネス活用の教育方法の模索</p> <p>勉強会を春・夏・秋・冬の4回開催する予定である。</p> <p>11月の全国大会で、現状報告の発表を予定している。</p>
------	---

研究部会名	ラグジュアリービジネス研究部会
部会長/代表	篠崎 友亮
メンバー	15名
活動結果	<p>研修会①</p> <p>テーマ：ラグジュアリー業界の経理・財務の特徴 — LVMH, Richemont, KERINGを通じて</p> <p>発表者：田村 宏明（田村宏明公認会計士事務所）</p> <p>日 時：2024年7月5日(金) 19時開催</p> <p>研修会② FashionStudies[®]（ファッションスタディーズ）との共催</p> <p>テーマ：『真理は常に美を纏う—太古からのLuxury—』</p> <p>登壇者：有川 一三（Albion Art代表）</p> <p>長沢 伸也（早稲田大学ビジネススクール教授）</p> <p>舟引 美咲（Nobless Labo代表）</p> <p>日 時：2024年8月14日(水) 10時～16時</p> <p>研修会③</p> <p>テーマ：ブランドスキャンダルと購買意図の関係：ブランド・リレーションシップの観点から</p> <p>発表者：李 熙明 文化学園大学服装学部 助教</p> <p>日 時：2025年3月28日(金) 19時開催</p> <p>研修会④ 雅耀会 Gayoh Societyとの共催</p> <p>伝統工芸の未来を拓く一国の支援とラグジュアリーとの新たな可能性</p> <p>ゲスト：寺村 英信 経済産業省 中部経済産業局長</p> <p>ゲスト：磯貝 智子 経済産業省 中部経済産業局課長補佐</p> <p>聞き手：中野 香織 作家／服飾史家</p> <p>日 時：2025年3月29日(土) 14時開催</p>
活動予定	<p>年に数回、研究会開催</p> <p>FashionStudies[®]（ファッションスタディーズ）、雅耀会 Gayoh Societyとの共催</p>

■関西エリア 4研究部会

研究部会名	ファッションビジネスカリキュラム研究部会
部会長/代表	岩崎 一哉
メンバー	2名
活動結果	酒井聡氏による講義をベースにTSIナノユニバース様のご協力をいただき、特別講義を12月に実施。 2月にAI概論授業の一環としてナノユニバース様に対して「企業課題解決プレゼンテーション」を実施。
活動予定	廃部

研究部会名	ファッションデザイン研究部会
部会長/代表	田島 等
メンバー	2名
活動結果	<p>【テーマ】</p> <p>1、リサイクルの服や素材の再構成を通じて、持続可能性を促進し、廃棄物削減、資源の効率的利用、地域コミュニティの結束を促進するための研究を行った。 (夢キタ万博2024をベースとして研究をした。)</p> <p>1. 廃棄物削減 古着の再構成は、不要になった服を再利用することで廃棄物の量を減らし、環境への負荷の軽減を研究した。ファイバーシーディーエム見学を行った。</p> <p>2. 資源の効率的利用 リサイクルの服や素材の再構成を実際の服を制作して検証をした。</p> <p>3. 地域コミュニティの結束 再構成プロジェクトは、地域の人々や組織を結集し、共通の目標に向けて協力する機会を提供した。大阪北区中学生と作品を制作し発表した。</p> <p>教育と意識の向上 再構成プロジェクトを通じて、持続可能性や環境保護の重要性について講義教育し、地域の人々が環境への影響を理解し、持続可能なライフスタイルを実践することを促した。</p>
活動予定	1、リサイクルの服や素材の再構成の方法論と実践の研究。

研究部会名	和文化ファッション研究部会
部会長/代表	伊藤 信子
メンバー	5名
活動結果	<p>【着装改良研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～5月 きもの離れの検証の中より 着用の困難さを解消するための研究を行う ・ 6月～9月 腰ひもを使わずに「簡単4ステップ着付け」の研究と仮サンプルの改善点を検討 ・ 11月～1月 サンプル製作 <p>【他 きもの普及活動取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月～6月 大阪府内高等学校等 きもの着付け実施 ・ 7月～9月 一般向け着付け講習会実施 ・ 7月 天神祭り「陸渡御列」巡行者 着付け実施 ・ 9月 京都の大学にて きもの基礎講義実施 ・ 11月 大阪府内高等学校にて 文化祭きものショーにおいて衣装提供と着付け実施 ・ 1月～2月 一般向け着付け講習会実施
活動予定	廃部

研究部会名	ファッション経営学 カリキュラム研究部会
部会長/代表	平野 大
メンバー	8名
活動結果	<p>2024年度は2025年9月8日(月)・9日(火)に実施されるシンポジウム「次世代ファッション人材を生み出す——イノベーションと教育について学ぶ2日間」の企画および準備をファッションビジネス学会研究部会と合同で行っていった。本シンポジウムの意義としては、経営、DX、デジタル・メディアといったキーワードをもとに、近未来の人材を創るための教育とビジネスをつなぐ内容を提案することがあげられる。具体的な活動実績は以下のとおりである。</p> <p>【2024年】</p> <p>4月20日(土) 第1回合同研究会・「合同研究会プロジェクトの趣旨説明」・オンライン開催</p> <p>6月29日(土) 第2回合同研究会・「シンポジウム企画案についてのうちあわせ①：シンポジウム講演案『デジタルファッションメディア』についての説明」(大島・和田) ・オンライン開催</p> <p>8月27日(火) 第3回合同研究会・「シンポジウム企画案についてのうちあわせ②：シンポジウムの枠組みについて」・オンライン開催</p> <p>10月19日(土) 第4回合同研究会・「シンポジウム企画案についてのうちあわせ③：シンポジウムリーフレットのレイアウトについて」・オンライン開催</p> <p>【2025年】</p> <p>2月15日(土) 第5回合同研究会・「シンポジウム企画案についてのうちあわせ④：シンポジウムの具体的な講演内容および今後のスケジュールについて」 ・オンライン開催</p>
活動予定	<p>3月22日(土) 第6回合同研究会・「シンポジウム企画案についてのうちあわせ⑤：シンポジウムの具体的な役割分担と運営について」・オンライン開催</p> <p>本研究部会は9月8日(月)のシンポジウムの開催に向けて隔月で打ち合わせをオンラインで実施していく予定。</p>

*2025年度より関東エリアと関西エリアは統合。

【東日本支部】

支 部 長：中 村 賢二郎
運 営 委 員 長：鈴 木 康 久
事 務 局：守 屋 知 江

- 1 会員数 個人会員83名 学生会員22名 法人賛助会員 2 社
- 2 2024年度の主な活動報告

(1)第23回東日本支部定期総会並びに講演会及び交流会

日 時：2024年 5 月25日(土) 13:00～16:00

場 所：学校法人杉野学園 第二校舎 小ホール

①定期総会

- 第 1 号議案 2023年度 事業報告並びに決算承認の件
- 第 2 号議案 2024年度 事業計画並びに予算承認の件
- 第 3 号議案 その他

②講演会

講演者：堀田 覚 氏

株式会社パル 取締役 専務執行役員 プロモーション推進部長

テーマ：「ファッションとテクノロジーの現在地」～パルグループの戦略～

③交流会

場 所：学校法人杉野学園 本校舎地下食堂

(2)ファッションビジネス学会 2024全国大会

日 時：2024年11月16日(土)

場 所：関西支部 大阪文化服装学院 本館

東日本支部より 口頭研究発表 4 報（内：学生会員 2 報）

ポスタープレゼンテーション 1 報 発表

(3)第24回東日本支部定期総会並びに講演会及び交流会

日 時：2025年 2 月22日(土) 13:00～16:00

場 所：学校法人杉野学園 第二校舎 小ホール

①定期総会

- 第 1 号議案 組織および運営体制の変更の件
- 第 2 号議案 2024年度 事業計画並びに決算承認の件
- 第 3 号議案 その他

②講演会

講演者：木村 淳 氏

株式会社ビームス クリエイティブ

ビジネスプロデュース部 プロデューサー

テーマ：「メタバース×ファッションビジネス ～ビームスが見据える可能性～」

③交流会

場 所：学校法人杉野学園 本校舎地下食堂

(4)2023年度 講演論文集No.18発行（2024年 5月25日）

2024年度 講演論文集No.19発行予定（2025年 3月下旬予定）

3 東日本支部運営委員会

日 時：2024年 5月25日(土) 11:00～12:00 学校法人杉野学園本校舎 2階会議室

日 時：2025年 1月15日(土) 15:00～16:00 学校法人杉野学園本校舎 2階会議室

日 時：2025年 2月22日(土) 11:00～12:00 学校法人杉野学園本校舎 2階会議室

【関西支部】

支 部 長：森 慈 郎
事 務 長：上 原 さと子

- 1 会員数 個人会員69名 学生会員1名 法人賛助会員6社

- 2 2024年度の主な活動報告
 - (1)関西支部役員会
2024年6月17日(月)
 - ①定例役員会
 - 1号議案 2023年度 関西支部活動報告・収支決算報告
 - 2号議案 2024年度 関西支部活動計画
 - 3号議案 2024年度 全国大会概要について

 - (2)ファッションビジネス学会2024全国大会 主催
2024年11月16日(土) 大阪文化服装学院
全体：研究発表30報 ポスタープレゼンテーション5報
関西支部研究発表：口頭発表10報 ポスタープレゼンテーション1報

 - (3)関西支部役員会
2025年3月19日(土)
 - ①定例役員会
 - 1号議案 2024年度 関西支部活動報告
 - 2号議案 2024年度 研究部会の活動報告
 - 3号議案 2024年度 収支決算
 - 4号議案 2025年度 支部廃止について
 - 5号議案 その他

【西日本支部】

支 部 長：坂 根 康 秀

事 務 局 長：岡 田 絵 梨 奈

1 会員数 個人会員39名 学生会員0名 法人賛助会員0社

2 2024年度の主な活動報告

(1)2024年度定例総会

①定例総会

日 時：2024年6月15日(土) 於：香蘭女子短期大学

1号議案 2023年度事業報告・収支決算報告・監査報告

2号議案 2023年度会費納入状況・会員異動状況

3号議案 2024年度事業計画案・予算案

②主催事業

日 時：2024年6月15日(土) 於：香蘭女子短期大学

企業と教育機関の情報交換会

テーマ：「ファッション業界を担う人材教育のために」

・企業アンケート報告及び学生動向レポート

・ランチミーティング

(2)2024ファッションビジネス学会全国大会（本部主催） 参加

日 時：2024年11月16日(土) 於：大阪文化学園

口頭発表：3報

ポスタープレゼンテーション：1報

(3)共催事業

①夏季公開講座

日 時：2024年8月8日(木)

場 所：香蘭女子短期大学

講 師：香蘭女子短期大学ファッション総合学科 非常勤講師 中園 唯 氏

「家庭科授業に活用できる 楽しい染色講座」

②夏期講習会

・講座Aコース【テーラードカラーの縫製法】

日 時：2024年7月30日(火)

場 所：香蘭ファッションデザイン専門学校

講 師：香蘭ファッションデザイン専門学校ファッションテクニカル科主任 野田部 寛之

・講座Bコース【3D着装シュミレーション「CLO」の実践】

日 時：2024年7月30日(火) ※未開催

場 所：香蘭ファッションデザイン専門学校

講 師：フリーランスパターンメーカー 秋吉 麻理子 氏

・講座Cコース【アイデアを形にし 広げるドローイング】

日 時：2024年8月29日(木)・30日(金)

場 所：香蘭ファッションデザイン専門学校

講 師：ファッションイラストレーター 岡本 あずさ 氏

2024年度 収支決算報告書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

単位：円

科 目	金 額
I. 収入の部	
会 費 収 入	3,043,000
研 究 会 ・ 講 習 会 収 入	0
論 文 誌 掲 載 料	330,000
雑 収 入	227,938
全 国 大 会 収 入	409,500
支 部 本 部 繰 入 金	1,256,170
当期収入合計 (A)	5,266,608
前期繰越収支差額	11,617,736
収入合計 (B)	16,884,344
II. 支出の部	
管 理 費	
本 部 ・ 支 部 分 担 費	1,256,170
旅 費 交 通 費	370,907
通 信 費	17,252
印 刷 費	20,900
事 務 用 品 費	231,259
雑 給 与	2,403,678
雑 費	17,715
管理費合計	4,317,881
事 業 費	
学 会 誌 ・ 論 文 誌 発 行	449,987
全 国 大 会 費	1,041,658
研 究 部 会 費	82,798
総 会 費	207,418
講 演 会 費	60,000
会 議 費	78,050
企 画 運 営 費	663,024
賛 助 会 費	50,000
書 籍 費	1,000
事業費合計	2,633,935
支 部 精 算 費	
支 部 精 算 費	871,670
支部精算費合計	871,670
支出の部合計 (C)	7,823,486
当期収支差額 (A)-(C)	-2,556,878
繰越収支差額 (B)-(C)	9,060,858

財産目録（本部・支部）

(2025年3月31日現在)

単位：円

科 目	現 金	普通預金	郵便振替貯金	合 計
本 部	7,194	1,257,371	7,796,293	9,060,858
東 日 本	0	0	0	0
関 西	0	0	0	0
西 日 本	0	0	0	0
合 計				

貸借対照表

(2025年3月31日現在)

単位：円

資産の部		負債の部	
現 金	7,194		0
普通預金	1,257,371	資本の部	
郵便振替貯金	7,796,293	繰越余剰金	9,060,858
仮払金	0	(当期余剰金)	
資 産 の 部	9,060,858	負債・資本の部	9,060,858

監査報告

ファッションビジネス学会定款第40条の規定により2024年度の決算報告について、帳簿・預金通帳・銀行残高証明書と照合の結果、期間の収支、期末における貸借対照表ともに適正に表示されていることを認めます

2025年5月1日

監事 雑賀 透



第2号議案

2025年度 事業計画と予算承認の件

(2025年4月1日～2026年3月31日)

事業計画案

1 2025年度ファッションビジネス学会全国大会の件

2025年度ファッションビジネス学会全国大会は、本部主催として11月に開催予定

2 論文誌発行

デジタル版のVol.30を2025年5月中に発行、及びVol.31を2026年3月末に発行予定

3 FBアワードY2025

学生対象のファッションビジネス企画コンテスト「FBアワードY」の4年目、2025年5月の募集からオンラインによる最終審査会を8月9日に開催予定

4 研究発表及び研究会活動の充実と活性化

- 1) ファッションビジネスカンファレンス「AIとファッションビジネスの現在地」を6月28日に開催予定
- 2) ファッションビジネスシンポジウム「次世代ファッション人材を生み出すイノベーション教育」を9月8日に開催予定
- 3) 論文執筆の支援講習会を年度内に開催予定
- 4) 研究部会による活動発表会を年度末に開催予定

5 2026年度理事会・総会

2026年度理事会・総会・特別講演会を2026年5月中旬に開催予定

2025年度 予算(案)

(2025年4月1日～2026年3月31日)

単位：円

科 目	予 算
I. 収入の部	
会 費 収 入	3,350,000
研 究 会 ・ 講 習 会 収 入	100,000
論 文 誌 掲 載 料	350,000
雑 収 入	250,000
全 国 大 会 収 入	450,000
支 部 本 部 繰 入 金	
当期収入合計	4,500,000
前 期 繰 越 収 支 差 額	9,060,858
収入合計	13,560,858
II. 支出の部	
管 理 費	
本 部 ・ 支 部 分 担 費	
旅 費 交 通 費	120,000
通 信 費	5,000
印 刷 費	10,000
事 務 用 品 費	130,000
雑 給 与	1,750,000
雑 費	30,000
管理費合計	2,045,000
事 業 費	
学 会 誌 ・ 論 文 誌 発 行	500,000
全 国 大 会 費	700,000
研 究 部 会 費	100,000
総 会 費	100,000
講 演 会 費	50,000
会 議 費	30,000
企 画 運 営 費	920,000
賛 助 会 費	50,000
書 籍 費	5,000
事業費合計	2,455,000
支出の部合計	4,500,000
当期収支差額	0
繰越収支差額	9,060,858

第3号議案

2024年度活性化活動報告と2025年度計画の件

1 機構改革・運営改善について

2021年度に立ち上げた活性化5カ年計画において2024年度定期総会にて承認された以下について検討した

テーマ：ファッションビジネス学会の運営改善

検討内容：・事務の効率化

・研究活動の活性化

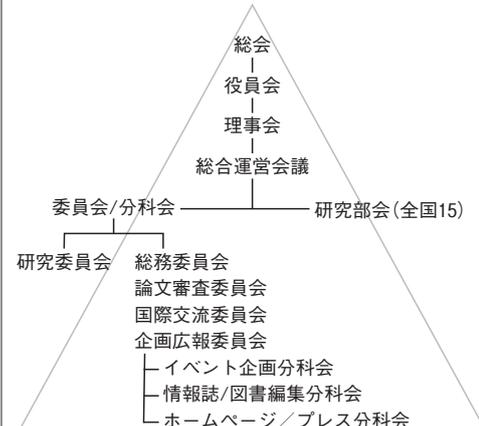
・本部および支部機能の見直し

結果、活性化5カ年計画の最終年度となる2025年度より当会の機構改革・運営改善として本部・支部を統合し、全国統一組織として運営する

全国統一組織運営の詳細については別途資料「機構改革における学会運営の新旧比較」にて報告する

2025年度からの機構改革における学会運営の新旧比較

2025.5

	旧	新
制度	本部/支部（東日本・関西支部・西日本支部） *支部制度	支部制度を廃止、本部/支部を統合 *全国統一制度（一本化）
運営	本部/支部ごとに運営管理、年度末に本部事務局へ報告	本部にて運営管理・通知
通知・HP告知	本部/支部ごとに会員へ通知、本部より全体的な通知・HP告知	本部より会員へ通知・HP告知
会員	本部/支部ごとに所属、本部/支部事務局にて各名簿/連絡先/入退会を管理	全国組織の一員として所属、本部事務局にて名簿/連絡先/入退会を管理 *学校単位ではなく会員個人での活動
会費	本部/支部ごとに請求・管理	本部事務局にて請求・管理
会計	本部/支部ごとに会計管理・決算、年度末に本部事務局へ報告	本部事務局にて統括管理
事務局	本部/支部ごとの事務局にて各運営に関わる事務管理	本部事務局による全体的な事務管理
総会・全国大会・講演・研修会等	本部/支部ごとに運営管理、年度末に本部事務局へ報告	本部にて各実行委員会と連携して運営管理
研究部会	関東/関西のエリアごとに運営	全国統括運営 *任意に研究部会に所属可能
組織図		

- 2 活性化計画の一環として新たなビジョン・キャッチコピーについて更新し、学会案内およびホームページを更新する

- 3 活性化計画の中で編成された以下の5委員会における活動報告と計画／組織について別途資料にて報告する
 - ◇総務委員会
 - ◇論文審査委員会
 - ◇研究委員会
 - ◇国際交流委員会
 - ◇企画広報委員会
 - イベント企画分科会
 - 情報誌・図書編集分科会
 - ホームページ・プレス分科会

総務委員会 2024結果および2025計画・組織

組織 計7名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	鈴木 康久	理事	杉野服飾大学
事務長	市川 智美	会員	文化ファッション大学院大学
委員	櫛下町 伸一	理事	文化ファッション大学院大学
委員	増田 大助	理事	ファッションビジネス学会事務局長
委員	菊原 政信	会員	フィルゲート(株) ※杉野服飾大学
委員	岡田 絵梨奈	会員	香蘭女子短期大学
委員	大泉 明子	会員	慶應義塾大学・文化学園大学院卒業

活動報告

目 標	<p>■2024年度活動計画</p> <p>・活動計画の主要四点</p> <p>①各支部相互の情報共有と各所属組織内における情報の拡散。</p> <p>②各支部一本化計画を含めた運営改善について有機的に関与していく。</p> <p>③作成した会員増加策のアップデートを図り、更に具体的なアクションプランに繋がる活動計画を組み上げていく。</p> <p>④その他FB学会の活動及び発展に有効な外部情報の収集と共有。</p>
2024結果	<p>■開催について</p> <p>・本年度は2回の委員会を開催となった。各委員の在籍地の問題もあり、全2回の開催については、いずれもZOOMによるオンライン開催となった。また、例年3回の開催を実施して来たが、本年度は支部制廃止等の不確定要素もあり、結果的に総務委員会の開催回数が減少した。</p> <p>第一回総務委員会 2024年6月20日(木) 17:30~18:40</p> <p>第二回総務委員会 2025年3月7日(金) 17:00~18:30</p> <p>■各回の主要議題</p> <p>・各回の主要議題については以下の通りとなった。</p> <p>《第一回総務委員会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総務委員会メンバーの確認 ●総務委員会の2023年度活動結果及び2024年度活動計画について ●総務委員会のスケジュールの確認・調整 ●その他各支部間の情報共有 <p>《第二回総務委員会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第一回議事録確認、 ●情報共有（総合運営会議、理事会） ●支部制廃止 ⇒ 本部一元管理への移行 ●会員増加策について意見交換 ●全国大会について報告および共有 ●学会キャッチコピー案検討

2024結果	<p>■本年度活動のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度活動のポイントは以下の通りである。 ●総務委員会にて「学会員増加計画」を会員属性別（個人、学生、賛助）の計画案として作成し、またその運用提案の提言を行った。 ●会員獲得ツールとしてフライヤーを作成し提言を行った。 ●学会の新しいキャッチコピーの提案を行った。 ●総務委員会として各支部間の情報共有を行った。 <p>委員会の特性を有効に機能させるために、学会全体を統括的に把握する必要がある事から広く情報共有を図る事に注力し、その共有に時間を割きながら各支部の情報の質の共通化に努めた。</p> <p>■活動成果と問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の活動成果と問題点については以下の通りである。 ●学会の命題となっている会員増加策を総務委員会として議論を重ね、計画案を策定し、学会に対して提言できた事は今後につながる成果と言える。一方で、即応性のある具体的な実行計画に繋がっていない点については今後に向けた積み残し課題となる。 ●各支部等の置かれている状況の違い、委員会メンバーの所属組織の属性によって学会活動の意義、そのプライオリティの違いは当然ながら存在しており、学会総体として考察していく必要性がある。
2025計画	<p>■2025年度活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な活動計画として以下の四点を掲げたい。 ①本部一元管理への移行に伴い、従来の各支部間の情報把握が難しくなるため委員会を通じて各地域の情報共有を図っていく。 ②引き続き、会員獲得に向けた効果的な施策の検討を行っていく。 ③作成したフライヤー等の販促施策の検討など。 ④その他FB学会の活性化及び発展に有効な外部情報の収集と共有。 ⑤本部一元管理への移行に伴う総務委員会の機能性や役割の再構築

以上

論文審査委員会 2024結果および2025計画・組織

組織 計5名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	内海 里香	理事	文化ファッション大学院大学
事務長	山岡 真理	会員	文化ファッション大学院大学
委員	富澤 修身	会員	大阪市立大学
委員	荒川 京子	会員	文化ファッション大学院大学
Web相談役	安田 和史	理事	(株)スズキアソシエイツ/法政大学

活動報告

目標	
2024結果	<p>昨年度より継続して、学会活性化の一環によりスタートした論文のデジタル版により、論文投稿の促進とコストの削減および作業効率の向上をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル版2024年度 vol.30号の発行に向けた査読・編集作業を進めた。 * 投稿数は、論文8報であった。査読の結果、論文6報、研究ノート1報、取下げが1報となった。 ・ 委員会活動について、以下の内容の見直しを行い実施した。 * 査読期間確保に伴い、2023年度より投稿原稿提出締切日を8月末日とした。2024年度も継続しているが、査読期間内の提出遅れもあることから進行が難しいこともあった。 * 査読者は、vol.29より投稿原稿に対して各3名としたことから、査読結果による投稿種別等の確定期間の短縮はある程度実施できた。 * 査読審査に伴う検討が必要な案件が発生した場合、具体的な対応方法を事務局及び会長と検討できたことで、学会の判断として投稿者に示すことができた。 ・ 今後の検討事項 * 投稿規程、査読規程等の各種規程の見直し・改定。 * 投稿者・査読者の継続的確保（質・量とも）に向け、学会及び当委員会の認知度向上。
2025計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の今後の検討事項等を踏まえVol.31の発行に向けて、引き続き改善点を挙げ、見直しを行う。 * 2024年度の活動結果で今後の検討事項として挙げた項目の実施及び実現に向けた具体策の立案・実行。 * 特に「研究論文の書き方セミナー」は学会員に向けて、2025年度に実施したい。

以上

研究委員会 2024結果および2025計画・組織

組織 計7名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	青木 稔	理事	文化ファッション大学院大学
事務長	鶴 鉄雄	会員	上田学園
委員	五月女 由紀子	理事	杉野服飾大学(※2024年10月に退会)
委員	平野 大	会員	国際ファッション専門職大学
委員	岡田 絵梨奈	会員	香蘭女子短期大学
委員	森本 美紀	会員	和洋女子大学
委員	宋 ユキ	会員	文化ファッション大学院大学

活動報告

目 標	<p>本委員会は学会活性化の見地から、研究者ファーストをテーマに日本の専門職教育の体系化に役立てることに重点を置きながら、国内外の文献研究とファッション企業の事例研究を組み合わせる研究していく。ファッションAI時代を生き抜くことができる教育カリキュラムの開発が急務となっている現在、本研究会では国際標準に向けて、日本のファッションビジネス教育カリキュラムを研究し学会で提案していく。</p>
2024結果	<p>2024年度に計画した以下の項目について成果を達成することが出来た 本研究は現状分析と問題解決への方向性を合理的に研究するため、オンライン会議（Zoom）を行った。グループを必要に応じて3つに分け、「研究委員会」（2回）・「リーダーミーティング」（3回）・「合同研究会」（7回）とオンライン会議（Zoom）を行った。 また、各個人の個別研究を実施した。</p> <p><2024計画項目と報告></p> <p>①初年度と同様に研究ファーストをテーマに活動</p> <p>②2024年11月のファッションビジネス学会全国大会にて発表</p> <p>③2025年度にファッションビジネス学会主催マネジメント教育セミナー「学術と実務でデザインする未来のファッション」としてシンポジウム・セミナーの実施準備</p> <p>④ファッションビジネス学会全国大会発表について</p> <p>【2クール：14:00～】 イノベーションを起こせる人材育成（研究委員会報告） —ファッションマネジメント教育の重要性— 発表者：山本ひとみ 神戸国際大学</p> <p>【5クール：15:30～】 フランスのファッション教育機関における専門職教育制度に関する研究（研究委員会報告） 発表者：平野 大 国際ファッション専門職大学</p>

2024結果	<p>〈2024年度研究の総合結果〉</p> <p>前年度の「企業の採用状況から分析する修士号・博士号取得者に関するジョブ型雇用の重要性」の研究により、グローバルスタンダード時代における企業側の修士号・博士号取得者への雇用ニーズが高まってきていることが明らかとなった。(特に外資系の中途採用)</p> <p>この分析に基づき、「海外の文献分析と産学官連携事例から考察する日本のジョブ型カリキュラム案」の研究では、ファッション経営におけるビジネスプロセスを学術的に体系立てた「上位概念」の基準がいまだに確立されていないことも明らかとなった。したがって、本研究の最後に国際標準レベルを目指した「ジョブ型カリキュラム案」を提案した。</p> <p>以上の研究成果から、外資系企業が求める人材を育成する教育機関が日本にほとんど存在しないということである。そのため、グローバル化と持続的な成長を支えるための教育機関の統合やジョブ型カリキュラムの推進が急務である。そして、国内外のファッション企業の成長に必要な人材育成を、リカレント教育含めて実行することが重要だと考えられる。そのためには、最初にその教育を指導する教員、つまり研究者の質向上から取り組むことが重要である。現在、日本の大学ではファッションビジネスに特化した修士、博士号の取得が困難であるため、学生や研究者は経済学、経営学の修士、博士号を取得せざるを得ない。したがって、ファッションビジネスに関する実践的な学問を修士、博士レベルで学ぶためのリカレント教育の仕組みが必要である。今後、学生や研究者がジョブ型就職環境に参加できるような体制を、産学連携を通じて構築することが求められる。そのために、2024年度は関西支部の「ファッション経営学カリキュラム研究会」と連携する形で合同研究を行うこととする。</p> <p>研究としては「デジタル・ファッションメディア・マネジメント」「ファッションテクノロジー・マネジメント」「ファッションコーポレート・マネジメント」という3つのテーマに取り組み、「マネジメント」レベルの教育内容を構築する。さらに、研究発表した「リカレント教育の仕組み案」を実現するためのステップとして、最初にジョブ型カリキュラムに基づいた「マネジメント教育セミナー」をスタートさせ、セミナー参加者の意見を参考にしながらリカレント教育の構想を練り上げることとする。</p>
2025計画	<p>年度の前半は、関西支部の「ファッション経営学カリキュラム研究会」と連携する形で合同研究を行ないマネジメント教育セミナーのタイトルとして「次世代ファッション人材を生み出すイノベーション教育」(仮)を2025年9月8日(月)神戸国際大学にて行う。そのための準備期間とする。セミナーは対面、オンラインのハイブリッドとして行い終了後は、参加者にアンケート調査を行い年度後半は、リカレント教育の構想を発展させる。</p> <p>また、日本のファッションビジネス教育カリキュラムを研究するために委員を増員させることを検討、実施する。</p>

以上

国際交流委員会 2024結果および2025計画・組織

組織 計6名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	五月女 由紀子	理事	杉野服飾大学
事務長	松岡 依里子	理事	国際ファッション専門職大学
委員	上田 哲也	理事	上田学園理事長
委員	中村 茂	理事	元神戸松蔭女子学院大学
委員	土屋 淳二	理事	早稲田大学
委員	菊田 琢也	会員	昭和女子大学

活動報告

目 標	ファッションおよびファッションビジネスに関係のある海外留学、海外での教育事情、および日本における国際的な、学者・書籍・論文・文化・価値観などを討議して、学会内に発信、交流に務める。その結果から、学会の再構築、活性化に寄与する
2024結果	<p>* ZOOM会議を2回行った。</p> <p>①2024年7月1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2023年実施のアンケート結果（95名の回答）から <ul style="list-style-type: none"> ・ 中村委員から再度分析を行い、詳細を追った発表を行った。国際交流については、企業訪問学校訪問、フランス、イギリス、アメリカ、中国のファッションデザインの指導の方法など関心がある。上田学園理事長から、2025年度から新しく始めるAICP（L'Académie Internationale de Coupe de Paris）への新しいフランス留学とインターンシップについての説明があり、進行状況を報告してもらう。 ・ アンケート結果から、若い研究者の国際交流への関心が低いことが明らかであり、その世代の学会員への興味関心も考えていく必要があると考えている。 <p>②2025年3月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中国・浙江紡織服装職業技術学院について五月女より発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 杉野学園で提携している浙江省寧波市にある3年制の大学で職業技術の修得を目的としている大学について発表を行う。中国の方向性としては職業技術学院を強化している。 ・ 23年、24年の集中授業や大学の様子などと共に、五月女のこれまでの研究から中国の特殊なインターネット事情やデジタル国家としての推移、オンラインコミュニケーションの特殊性などを共有した。
2025計画	<p>* 2025年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上田学園（上田安子服飾専門学校）で2025年から開始するAICPフランス留学とモデリストの国家資格取得について上田理事長と中村委員との間で情報交換をしている。モデリスト養成学校のAICPは1830年開校と古い歴史と伝統があり、日本との留学提携は初めてである ・ 現地のスタッフや上田安子服飾専門学校の校長などにも協力をしてもらい初年度の動向を報告していただく予定にしている。上田学園の国際交流は、実務的で実務的なので、学生募集にもプラスの影響がある。25年度秋の全国大会で研究発表をする計画をしている。 ・ この方向性を考え、最近の欧州事情の報告やフランス研究者などゲストとして委員会に招聘していき、昨今の欧州のファッション教育の把握を共有していく予定にしている。

企画広報委員会 イベント企画分科会 2024結果および2025計画・組織

組織 計8名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	理事	ファッションリンクス
分科会長	平井 秀樹	理事	国際ファッション専門職大学
事務長	山口 大人	理事	MASATOYAMAGUCHI DESIGNOFFICE代表/デザイナー
委員	木村 千晶	委員	杉野学園ドレスメーカー学院
委員	杉浦 佳苗	会員	文化学園大学
委員	筒井 香名	会員	所属確認中（公募）
委員	八木 恵子	学生会員	文化服装学院 学生（公募）
委員	内海 里香	理事	文化ファッション大学院大学（8月末退任）

活動報告

目 標	
	活性化の一環として、主として学生・新規会員の獲得・会員メリットの訴求・会員の研究活動に資するイベントの企画運営を行う
2024結果	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年3月の春休みに桐生研修を実施した。織物協同組合専務理事より織都：桐生の歴史と現況についてご講義頂いたのち、ハンドルミシンを使った手刺繻や生糸の工房、絹織、独自のジャカード織を開発している事業所などを見学した。桐生産地では、事業所見学だけでなく、機織りや座繰り、藍染めなどの体験も研修プログラムに取り入れたため、非常に好評を博した。この産地研修ツアーは、2年目を終えた現在、参加動機は異なるものの、まずリピーターが多く、参加者同士の交流も活発化しており、この研修によって繋がった事業所と参加者の所属機関によるコラボレーションや参加者の個別研究テーマを踏まえての再訪が行われるなど、学会によるファッション知財の創造に対して確実に貢献、成果を生み出している。 ・夏休み8月に都京都八王子産地研修を実施した。日帰りであったが、織物協働組合で、縮小する産地の栄枯盛衰をお伺いできた。また宮真テキスタイルの伝統的なテキスタイル開発の話しを聞けたり、縞猫商会ではデジタル捺染について学んだ。猛暑の中有意義な研修であった。
2025計画	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み8月と春休み3月の年間計2回、産地研修を継続して実施予定。 →夏休みは春に予定していた尾州産地が流会となったので同じ企画で実施予定。春休みは未定で会員で意見を出し合って決めていきたい。

以上

企画広報委員会 情報誌・図書編集分科会 2024結果および2025計画・組織

組織 計5名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	理事	ファッションリンクス
分科会長	同上	同上	同上
事務長	江良 智美	会員	目白大学
委員	依田 素味	理事	日本経済大学
委員	安田 和史	理事	(株)スズキアンドアソシエイツ/法政大学
委員	平松 隆円	会員	宝塚医療大学

活動報告

目標	論文誌と棲み分けしたうえで、学会関連の研究情報や活動報告などをHPから発信。それによって会員の研究発表を拡充するとともに、内外に学会をアピールし、研究活動や新規入会を促進する。
2024結果	・2024年10月に「GAKKAI-PRESS」5号、2025年4月に6号を発行。 ・編集内容（全国大会や総会での基調講演・シンポジウム、会員の研究発表、産地研修レポートなど）、新刊紹介と編集費用について検討。
2025計画	・引き続き「GAKKAI-PRESS」の編集内容を精査。 ・7号（10月発行予定）の編集内容の検討並びに編集作業。

以上

企画広報委員会 ホームページ/プレス分科会 2024結果および2025計画・組織

組織 計7名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	理事	ファッションリンクス
分科会長	依田 素味	理事	日本経済大学
事務長	古田 賢	会員	企業
委員	竹花 友哉	会員	杉野服飾大学
委員	舟引 美咲	学生会員	東京大学大学院
委員	城田 衣	会員	FB学会デジタルテキスタイル研究部会
委員	岡本 慶子	会員	法政大学

活動報告

目標	
目標	活性化の一環、デジタル化において学会ホームページを活用、PRを強化し、研究促進と会員増強を目指す。
2024結果	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度公募により新規分科会メンバー4名が新たに参加し、2回の分科会を開催した。 <p>〈ホームページ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年6月にトップページはじめ、ファッションビジネスの学会であることのイメージ訴求を目的としてイラストの追加、コマンドの整理など、リニューアルを実施した。 ・会員員情報誌GAKKAI PRESSのHPアップについては、年に2回（4、10月）引続き運用ができた。 ・トップページのキャッチコピーについての見直し案を分科会でディスカッションし、事務局・運営委員会に提案を行った。 ・2025年度の見直しのため、とりわけ研究部会のコンテンツについて、現実的な活動に則した内容に変更するため、分科会で議論して事務局・運営委員会へ提案を行った。 <p>〈プレス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生対象の第3回「FBアワードY2024」の最終審査会の結果が2024/8/8の織研新聞に掲載された。 ・イベントや研究会など年間でホームページへの告知、事務局を通じて会員へ随時メール通知を行った。
2025計画	<p>〈ホームページ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会の研究活動を分かりやすく伝えるために、各研究部会のコンテンツを整理する。 ・学会組織改編（支部の廃止等）に伴い、事務局を中心にHPの内容を適宜修正する。 ・会員間の交流、新規会員獲得のために、学生サークルによるSNS活用の可能性など、引続き検討を行う。 ・リクルートなど会員メリットに通じる内容を引続き検討する。 <p>〈プレス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の業界メディアだけでなく、Webメディアなどの活用を検討し、参加動員・入会の促進を図る。

以上

第4号議案

定款および運営内規の一部改訂について

機構改革に伴う定款および運営内規の改訂箇所について、別途資料にて報告する

ファッションビジネス学会定款 *赤字訂正

拠点 第3条 *支部の差し替え

本会は、理事会の議決を経て、必要の地に拠点を置くことができる。

入会 第13条

本会に入会しようとするものは、別に定める入会申込書を提出し、本・支部運営委員会の承認を経←トルツメなければならない。

退会 第14条

本会を退会しようとする会員は、理由をつけてその旨を本会に届け出て、本・支部運営委員会の承認を経←トルツメなければならない。

総合運営会議 第27条

②総合運営会議は、会長、副会長、専務理事、常務理事、支部長←トルツメ、拠点代表理事←追加、常設委員会委員長、および会長が理事のなかから指名・委嘱した特命理事（2名以内）によって構成し、構成員は13名以内←トルツメ、任期は2年とする。

本改訂定款は、2025年5月17日から施行する。第47条

ファッションビジネス学会運営内規 *赤字訂正

組織の構成 第2条

運営機能部門は、理事会をはじめ総合運営会議、常設委員会、特別委員会などの各機構および本部・支部←トルツメで構成される。

研究機能部門は、本部・支部に設置された←トルツメ研究部会によって構成され、個別的な支援は本部・支部←トルツメが担当するが、全般的には研究委員会が管掌する。

理事の選任 第3条

運営機能部門の代表 30%（支部長、←トルツメ、拠点代表←追加、委員長/分科会長←追加など）

理事の職務 第4条

業界関係理事以外の理事は、原則として常設委員会、支部などの長、←トルツメまたは委員を

兼務するものとする。

総合運営会議の職務 第5条

各委員会・支部←トルツメ・研究部会などの活動計画・活動状況を総合的に把握して収支報告、収支予算、事業報告、事業計画およびその他議案を事前審理し、理事会に提出する。

次期の理事候補を選定する。

委員会・支部←トルツメ・研究部会などの相互協力のための協議・調整を行う。

3種の←トルツメ機構 第7条

理事会／総合運営会議のもとに常設委員会、特別委員会、支部←トルツメの3種の←トルツメ機構を設ける。

常設委員会、特別委員会の委員長は理事会の指名によって、支部長は支部運営委員会の推薦と会長の委嘱によって、いずれも←トルツメ理事が就任する。

支部としては、東日本支部、関西支部、西日本支部を置く。支部の新設については、第12条「支部の設置」で定める。←トルツメ

支部の長および委員は、常設委員会・支部傘下研究部会の長および委員との兼任は妨げないが、他支部との兼任は認めないものとする。←トルツメ

運営4委員会と傘下分科会 第8条

③会員（正会員・準会員・学生会員・賛助会員）の拡大計画および支部←トルツメの新設計画を理事会に提案し、承認後は主導的役割を果たす。

研究委員会 第9条

全国大会の研究発表会の実施主体は研究委員会であるが、運営は本部または支部の←トルツメ事務局に一任するものとする。

研究部会の運営 第10条

研究部会が主催するイベントの参加者は、会員・非会員を問わず、支部の規模を超えるものであってもよい。←トルツメ形式もリアルとリモートを問わない。

運営経費について、特別な事情から本部・支部←トルツメの補助を必要とするときは、次年度活動計画書に収支予算案を記載して申請するか、必要とする時期の1か月前までに計画書を研究委員会に提出して、総合運営会議または支部運営委員会の←トルツメ承認を受けなければならない。ただし、全額補助にならない場合もある。

第6章 拠点 *支部と差し替え 12.13.14条を追加

拠点の目的 第12条

当該拠点における研究に関する活動を活性化することを目的とする。

拠点の箇所 第13条

全国に10の拠点（北海道、東北、関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄）を想定する。

拠点の代表者と役割 第14条

拠点の代表者を理事の中から各1名選任する。

代表者は、拠点における研究活動を集約し、活性化について総合運営会議に提案する。

なお、拠点における運営と事務については本部事務局が担い、代表者が関わることはない。

本部事務局の設置と役割 第15条

本部事務局は、常設委員会、特別委員会および支部←トルツメと緊密に連携しながら、業務を遂行しなければならない。

会員の所属 第16条

会員は、必ず一支部に所属するものとする。←トルツメ

正会員、準会員、学生会員は、地域に関係なくすべての研究部会から選択し、複数の部会に所属することができる。←差し替え修正

会員の義務・恩典と除名 第17条

・本部、委員会、研究部会および支部←トルツメが主催するイベントへの参加・聴講。

次の会員は、除名するものとする。

会費の徴収時期・方法と支部への還元←トルツメ 第18条

会費は、毎年5月、本部事務局が会員に請求書をメールにて送付する。会員は、それぞれ所属支部の口座に←トルツメ6月末までに振り込むものとする。

正会員・学生会員の会費は、支部からいったん本部事務局に納付し、本部事務局は会員数に応じた金額を支部運営費として還元する。賛助会員の会費は、支部がそれぞれ収入とすることができる。←トルツメ

決算 第19条

支部事務局は、年度終了後2週間以内に、統一様式による支部決算書を作成して、本部事務局に送付するものとする。

決算・予算における支部からの本部繰入金については、支部の会費収入の半額を本部に繰り入れることとする。(関西支部については会費収入から経費を差し引いた分を本部に繰り入れる)←トルツメ

本部事務局は、年度終了後5週間以内に、支部決算書を連結した←トルツメ本会決算書を作成して、総合運営会議に諮り、理事会および総会に提出するものとする。

調査・研究・図書編集の受託および図書監修 第20条

外部機関から本部に調査や研究の委託があった場合は、総務委員会が折衝にあたり、適切な研究部会に受託を仲介するものとする。

外部機関から支部に調査や研究の委託があった場合は、総務委員会に類する機構または支部事務局が折衝にあたり、適切な研究部会に受託を仲介するものとする。←トルツメ

対応可能な研究部会が存在しないときは、臨時の研究部会の新設を可とする。

外部機関から研究部会に直接、調査や研究の委託があった場合は、研究部会は総務委員会または支部←トルツメ事務局に通知し、共同して折衝にあたるものとする。

調査・研究の受託にともなう研究部会の経費と収入については、その都度、総務委員会または本部←追加 支部←トルツメ事務局と協議して決めるものとする。

外部機関から本部または支部に←トルツメ図書の編集（企画・執筆を含む）の委託があった場

合は、本部／支部事務局が←トルツメ会員のなかから人選して、その任にあたらせるものとする。編集にかかわる会員個人の経費と収入については、その都度、本部／支部←トルツメ事務局と協議して決めるものとする。

外部機関から本部または支部に←トルツメ図書監修の依頼があった場合は、図書が本部・支部←トルツメ 事務局←追加の管理のもとに製作されたものであれば、印税方式の監修料を5%とし、管理外のものについては、その都度、外部機関と協議して決める。

この運営内規は、2025年5月17日から施行する。

第5号議案

2025年度 役員並びに名誉会員

2025年5月1日現在（敬称略）

会 長	岡 本 義 行	法政大学 特任教授
副 会 長	山 本 ひ と み	神戸国際大学 経済学部 教授
理 事	青 木 稔 依 田 素 味 上 田 哲 也 内 海 里 香 岡 田 絵 梨 奈 櫛 下 町 伸 一 佐 々 木 幸 二 首 藤 眞 一 申 恩 泳 鈴 木 康 久 五 月 女 由 紀 子 田 口 一 子 土 屋 淳 二 中 村 茂 平 井 秀 樹 福 永 成 明 増 田 大 助 松 岡 依 里 子 安 田 和 史 山 口 大 人 和 田 康 彦	文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 教授 元日本経済大学教授・日本経済大学大学院エンターテインメント ビジネス研究所研究員 上田学園理事長 文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 教授 香蘭女子短期大学 ファッション総合学科長 教授 文化学園理事 文化ファッション大学院大学 学長 織研新聞社 代表取締役社長 文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 ファッ ションマネジメント専攻 専攻長 文化学園国際交流センター 所長 文化学園大学 服装学部長 教授 杉野服飾大学 服飾学部 学部長 教授 杉野服飾大学 服飾学部 教授 元中国デザイン専門学校 学校長 早稲田大学 文学学術院 教授 元神戸松蔭大学教授・文化ファッション研究機構共同研究員 国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 教授 ファッションビジネス学会 専務理事 ファッションリンクス代表 ファッションビジネス学会 常務理事 事務局長 東京家政大学教授 株式会社スズキアンドアソシエイツ取締役 日本知財学会 事務局長 法政大学 理工学部/法学部 講師 MASATO YAMAGUCHI DESIGN OFFICE 代表・デザイナー 一般社団法人日本アダプティブファッション協会 理事 大阪文化服装学院 校長
監 事	雑 賀 透	株式会社島精機製作所 東京支店 参事
名誉会員	尾 原 蓉 子 小 山 田 道 弥 坂 根 康 秀 中 村 賢 二 郎 馬 場 彰 森 慈 郎	元WEF創設者・名誉会長 元IFIファッションビジネススクール学長 ファッション総研代表 学校法人山内学園理事 元ファッションビジネス学会西日本支部長 杉野学園理事長 元ファッションビジネス学会東日本支部長 元日本ファッション協会理事長 元オンワードホールディングス名誉顧問 大阪文化服装学院上級顧問 元ファッションビジネス学会関西支部長

ファッションビジネス学会 会員数の推移

(2025年3月31日現在)

	個人会員	学生会員	計	法人賛助会員
2015年度	463名	28名	491名	21社
2016年度	446名	24名	470名	20社
2017年度	455名	15名	470名	19社
2018年度	447名	17名	464名	19社
2019年度	449名	18名	467名	17社
2020年度	462名	23名	485名	15社
2021年度	454名	29名	483名	15社
2022年度	436名	58名	494名	15社
2023年度	426名	58名	484名	15社
2024年度	410名	58名	468名	15社

(年度末時点の会員数)

【2024年度内訳】

	個人会員	学生会員	計	法人賛助会員
本 部	217名	35名	252名	7社
東 日 本	83名	22名	105名	2社
関 西	69名	1名	70名	6社
西 日 本	41名	0名	41名	0社
計	410名	58名	468名	15社



ファッションビジネス学会

■本部 〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1 文化学園内
MAIL : fbgakkai.1993@gmail.com